

第17回会議メモ

(注)緑字部分は、翻訳時に補った注釈

開催日時:

2015年12月22日 (火) 23:00 ~ 24:30 (日本時間)

会議メモ:

- ・ EJ社 (コネクタメーカー) が新たに参加したため、座長がこれまでの経緯を概説した。
- ・ KM氏 (JD社) が物理層の考え方についてプレゼンを行った。それはUTPケーブルを用いた場合に互換性をどのように保証するかを述べている。(プレゼンはメンバーに回覧)
- ・ 以下の3点について検討が必要。
 1. 物理層はどこまでコスト削減できるか?
 - (a) 各メーカーは試算値を出して欲しい。
 - (b) コネクタメーカーは意見を出して欲しい。EJ社は、既に製品を幾つか出している。
 2. KM氏のプレゼンについて、何か提案やコメントはあるか?
 3. 作業機により多くの電流を供給すること (現状は 60A まで) を考える必要があるか?
 - (a) それはコスト増に繋がる。はたしてCOPLが、「小さくて安価なトラクタ (当初の目標)」のための解になるだろうか?

これらの問い合わせに答えが出たら、COPLが本当の解決策かどうかが分かり、その結果をAEFの運営委員会に報告することが出来る。もし本当の解決策だと決まれば、我々グループは予算を確保して試作・解析を行い、ガイドラインや規格を作成することになる。

宿題 (全員): 上記の3つの問に対して回答する。

【補足説明】

SPL (シンプル物理層) …… 当初、低コスト物理層タスクフォースで検討を行っていた物理層。トラクタ上でバス両端の終端を行い作業機はスタブ接続とすること、作業機の接続には新たな4ピンコネクタ (ECU-Power/ECU-GND、CAN-H/L) を検討すること等が検討されていた。COPL (コスト最適化物理層) …… SPLの対案として、AEFのSCから検討を指示された物理層。作業機の接続には9ピンコネクタを使うなど、基本的には現行ISOBUSのスタイルを踏襲しつつ、終端抵抗をアクティブからパッシブにしたりしてコスト削減を目指すもの。現行ISOBUSとの互換性を考えると、最終的にはSPLよりCOPLの方がコスト面でも有利だとの意見が主流。

注: この邦訳版議事録 (粗訳) は、当該タスクフォースにおける審議内容を国内各社に迅速に周知するために、「農作業機械における制御通信共通化技術普及推進協議会」が作成した。あくまでも粗訳であるため、内容に疑義がある場合は事務局に御連絡頂きたい。